# 茶論「四季おりおり」－秋－　開催報告

「茶論・四季おりおり」では、春・夏・秋・冬を友として暮らす日本人のこころを再発見するために、「聞香」を通して楽しみたいと思います。
「聞香」とは、自然の恵みである“香木”を焚き、その香りに包まれ“森羅万象のこころ”を聞くことをいいます。毎回、テーマを通して、様々なこころを香りに聞いていきます。
3 回目の今回のテーマは「月を想う」。
『文化藝術の会』会員様を中心に、ご参加いただきました。

**【開催概要】**

**■「秋：『月を想う』」**

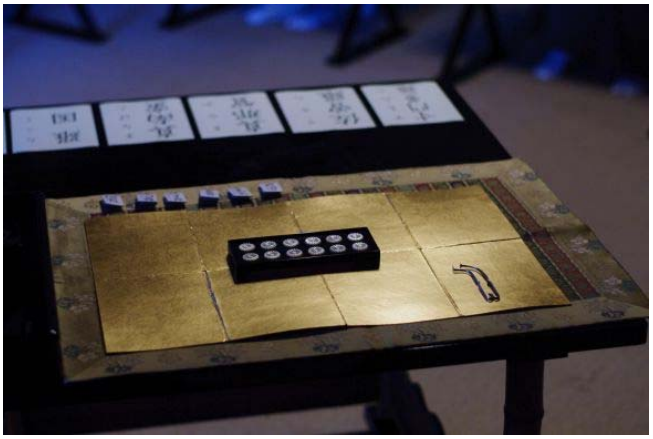
＊明治神宮 隔雲亭目にも眩しい夏の草木の緑を感じ、お香を聞きながら万葉集の世界へ。

開催日時： 11 月 15 日（日）
第１回：13 時 00 分から 14 時 30 分　第２回：14：45 から 16：00
会　　場： 明治神宮　隔雲亭
講　　師： 伊達晟聴
主　　催： 財団法人日本文化藝術財団
助　　成： 日本財団　、全日本社会貢献団体機構
後　　援： 京都造形芸術大学、東北芸術工科大学
参加者数： 21 名

隔雲亭

会場の立礼室

初めに呈茶。抹茶と季節のお菓子を楽しんでいただきました。



本日のテーマについてのお話し。源氏物語「紫の上」の歌が証歌です。

１種類ずつ、香炉を回して香りを聞きます。本日は六国五味、全ての香りを聞きます。

思い思いに、香りのイメージ、感想を書き留めます。

灰手前の体験も行いました。

最後に、６種類の香木の中から、本日のテーマに合う香木を選びました。
晩秋の明治神宮隔雲亭での茶論、実習形式を盛り込んだ内容で、和やかに楽しんでいただけました。

※隔雲亭について

もとの隔雲亭は、明治三十三年明治天皇の皇后様へのお心遣いから建てられたもので、京風の木造柿葺平家八十二・五平方米八畳二間のお休所でありましたが、惜しくも昭和二十年戦災を蒙り焼失致しましたので、昭和三十三年御社殿御造営の残材と篤志の工費寄付とに依り、従来同様のお休所に新たに茶室を附設して建坪二〇四・六平方米に拡張復興したものであります。（リーフレットより）

【参加者のご感想】

・ 静かな明治神宮で聞香が出来、有意義な一時を過ごすことができました。
いの子餅、美味しかったです。

・ 今まで味わったことの無い世界を体験できてとても楽しかったです。
香の世界＝癒しだと思っていたのですが、昔は違ったのですね。今日はありがとうございました。

・ 立礼でしたが、少し寒々としていまして、南側の和室の方が暖かくてよかったかと思いました。
できましたら、伊達先生のお手前の香元でお香席を拝見したかったです。
炭団の熱がどの香炉も均一で聞きやすく楽しいお席でした。

・ とても楽しかったです。
香りが体の中にしみわたることがとても気持ちよく感じました。
心が清められたようです。

・ 普段親しみの無いお香の世界を楽しみました。
初めての経験でとても楽しかったです。歌の世界にも興味を持ちました。
万葉集、源氏物語のお話しをまたお聞きしたいです。ありがとうございました。

・ 香をどうしても濃淡で考えてしまいます。
今後は、文学と結びつけるようにしたいと思います。
本日はありがとうございました。

・ 初めて参加する事、ありがとうございます。

・ その都度違って聞こえる香の不思議を感じました。
感性が訓練によって磨かれるとのこと、楽しいですね。また参加したいと思います。

・ 非常に優雅な時間が過ごせました。
これからお香のお店を覗くのが楽しくなりそうです。ありがとうございました。

・ 私は寸門多羅が好きです。
最初は匂いの違いが分かりませんでしたが、2 回目で分かりました。
とてもいい体験でした！

・ とても楽しく発見がありました。また開いていただきたいです。
場所もよかったです。

・ 今までにない体験でしたので、とても楽しく興味深い体験でした。
もう少し深く知りたい気がします。

また参加させていただきたいです。ありがとうございました。

- 前回と同じ香を自分で選んだことに驚きました。
  今回は紫の上の気持ちを考えながら、かがせていただけたのが、新鮮でした。

- 大変勉強になりました。
  祖母を思い出しました。

- 初めて体験させて頂きました。
  とても深い香りですが、アロマより馴染み深く、親しみが湧きました。
  説明も易しく、楽しめました。
  また期会がございましたら、うれしいです。ありがとうございました。